

ぽこ・あ・ぽこ

Poco a Poco イタリア語で「少しずつ」という意味です。

発行者 社会福祉法人 神戸婦人同情会 子供の家
〒661-0974 兵庫県尼崎市若王寺3-16-3
tel 06-6491-8953 fax 06-6498-3444
支援センター (tel, fax) 06-6491-1811
E-mail (子供の家) info@kodomo-ie.org
(支援センター) candy@kodomo-ie.org
URL http://www.kodomo-ie.org

第74号 平成19年5月1日 発行

「三十年という歳月」 副主任児童指導員 松浦 武

私事ではありますが、恥ずかしながら昨年8月に誕生日を迎えて、三十歳になりました。いわゆる「男、三十歳」です。二十歳になった時には、その前日に原付バイクで琵琶湖一周の旅に出ましたが、三十歳になった時には、二十歳の時の大人になるといふ高揚感もなく、それまで実感されなかった「大人」というものが実感されたり、「お兄さん」から「おっちゃん」の分類に本格的に入るのかな、という寂しさも感じたりと、何か複雑な心境であったことを記憶しています。

生まれた年は一九七六（昭和五十一年）年です。この年はロッキード事件で田中角栄前首相が逮捕され、政界は大揺れだったそうです。歌では、都はるみの「北の宿から」やキャンディーズの「春一番」、そして「およげ！たいやきくん」がやはり、大相撲の世界は北の湖・輪島の全盛時代、郵便ハガキは二十円、封書は五十円、円相場は1ドル＝180円台、宝くじの一等賞金は一千万円だったそうです。

そしてこの年のトピックスとして付け加えたいのが、「子供の家」の建物が現在の場所へ新築移転された

年であり、また「児童福祉施設最低基準」の「職員配置基準」が小学生以上の子ども六人に対して職員一人という基準に改定された年でもあります。

三十年前の社会情勢を正確に知ることは難しいものの、現在と比べれば社会が大きく変化していることは明らかであり、子どもや家庭を取り巻く環境も大きく変わっているのです。簡単な例えを言えば、パソコンや携帯電話などは存在しなかったのですから。

ここで触れておきたいことは、この「児童福祉施設最低基準」の「職員配置基準」のことについてであり、この一九七六年の改定を最後に変更されていないことです。

三十年という歳月。「子供の家」の建物はその間の雨風や阪神・淡路大震災に耐えて子ども達を見守り続けていますが、年々老朽する箇所が増え昨年大規模に修繕されました。

しかし「職員配置基準」は三十年前のままであり、現代の子ども達にとつて安心して健やかに生活できるような基準であるとは言えないのが現状です。「子どもは社会の宝物」という考えのもと、早急な改善が望まれ続けて久しいことが残念です。



最後に、私も三十歳という大きな節目を迎えましたが、まだまだ未熟な頭や身体にムチを打ち、時にはいたわりながら、来たる変化に備えて力を蓄えていきたいと思っています。

新任職員紹介

今年も四人の新しい職員が、子供の家に仲間入りしました。宜しくお願ひします。

保育士の浅井万貴子です。何事にも前向きに取り組むことができそうです。好きなことは、歌を歌うことと、野球観戦です。これからはこの好きなことも、子どもたちと楽しめたらなと思います。まだまだ未熟ではあります。子どもたちと共に育ち合っていきたいと思っています。宜しくお願いします。（浅井万貴子）

四月一日より子供の家の職員となりました。仲川宗一郎と申します。私のことですが、去年の暮れから日記を書いていきます。典型的なB型のせい、これまで色々なことにチャレンジしては断念してきました。まだ書き始めて四ヶ月。紙の量は薄っぺらいものです。しかし読み返してみると、様々なことがあって、今があるのだなと感ずることができそうです。そして、これからも書き続けていくつもりです。これから起こる楽

しいこと、辛いことなど充実した日々を書いていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。

(仲川宗一郎)

子供の家に入ってすぐは分からない事ばかりで不安でした。けれど、調理場の皆さんは、とてもアットホームで、毎日楽しく働かせてもらっています。自分が担当した献立が「美味しかった」と言われた時は本当に嬉しいです。これから働いていく中で、予習・復習をしっかりとし、作業内容を完全に覚えられるように頑張っていきたいです。毎日の食事で、食べるこの大切さや楽しさを伝えていきたいと思えます。そして、子どもたちの名前も早く覚えていこうと思います。

(野曾 裕子)



はじめまして、前田江美です。柴犬とパンダが大好きな魚座のO型で

す。週に二回心理職として来ることになりました。どうぞよろしく願います。

(前田江美)



入園式・入学式

桜の花も咲き、花びらが舞い散る中、入園・入学式が行われました。皆、嬉しい気持ちと不安な気持ちでドキドキの表情。けれど、そうして入場していく姿に、改めて子どもたちの成長を感じました。帰ってくる時、「もう新しい友達できたで！」「緊張して何も覚えてないわ!」と、それぞれ嬉しそうに話す姿に、これからまた新しい環境で、子どもたちは色々な事に出会い、たくさんの経験をしながら、さらなる成長をしていくのだろうなと、わくわくとした気持ちになりました。



レオクラブ

王子動物園

楽しみにしていたレオクラブからの招待行事。当日は朝から雨が降り心配でしたが、とても暖かく過ごしやすい一日でした。動物たちも活発に活動しており、子どもたちは真剣に観察することができ、大喜びでした。また、動物園内の滑り台で思う存分に遊び、汗をたくさんかき、たくさん笑い、日々の生活から抜け出し、子どもたちの違った1めつつもみることができました。

出発前に一人女の子が「どうして子供の家ではいっぱい遊びに行けるの?」と言いました。こういう風に感じてくれた事は嬉しく感じました。毎日少しずつ成長する子ども達の周りには、たくさんの方の助けがあることに感謝をする日でありました。



特集

子どもの詩 第四回

子供の家の小学校三年生のK・Jちゃんがステキな詩を書いていきます。今月号でも一つ紹介したいと思います。

『花』

日本にはいろいろな花があるでも、どの花も散ってしまう散っていかない花なんてないでも一つあるかもしれないそれは心の中の花枯れないように育てよう

編集後記

新年度が始まり、子どもたちは皆学年が一つ上がり元気に登校・登園しています。園庭には、毎年恒例の大きなこいのぼりが気持ち良さそうに泳いでおり、「こいのぼり嬉しそうなお顔をしているね!」と、皆で見上げています。

